

1 調査の概要

(1) 調査の趣旨・目的

新学習指導要領において身に付けることが求められている基礎的・基本的な内容のうち、「読み・書き・算」等の基礎学力について、県全体における定着度の状況について調査した上で、分析結果のまとめを作成し、今後の個に応じたきめ細かな指導方法の改善・充実に資することを目的とする。

(2) 調査の内容

ア 学力調査

ペーパーテストにより、実施教科における前年度までの基礎学力の定着状況を調査する。

イ 意識調査

- ・ 質問紙により、児童生徒の学習に対する関心・意欲・態度等の状況を調査する。
- ・ 学力調査の結果と意識調査の結果の関係を調査する。

(3) 調査の対象

各調査対象校では、対象学年のすべての学級（学校教育法75条学級は除く）の児童生徒を調査対象とする。

校種	学年	調査内容	調査対象校	調査対象児童生徒数
小学校	第4学年	国語, 算数, 意識調査	59校	1,934人
	第6学年	国語, 算数, 意識調査	59校	2,093人
中学校	第3学年	国語, 数学, 英語, 意識調査	29校	2,192人

(4) 調査の実施日

平成15年4月21日（月）～30日（水）

（同日にすべての教科等を実施しても、数日にわたって実施しても構わない。）

(5) 調査の時間

ア 学力調査

- ・ 小学校 調査時間・・・国語45分，算数40分
- ・ 中学校 調査時間・・・国語・数学・英語とも45分

イ 意識調査

- ・ 小学校，中学校ともに20分を目安の時間とする。
（時間内で回答できなかった児童生徒については，時間を延長しても構わない。）

(6) 調査対象の抽出方法

ア 学力調査および意識調査

(ア) 対象学年の全児童生徒数の10%程度を抽出して実施する。

- ・ 小学校59校，中学校29校の計88校を調査対象校として抽出する。
- ・ 調査対象校では，調査対象となる学年の全員に学力調査および意識調査を実施する。

(イ) 調査対象校の抽出に当たっては，学校規模，地区等のバランスを考慮する。

イ 学力調査と意識調査の関係に関する調査

- ・ 調査を実施した学校から，学校規模や地区等に考慮しながら10%程度を抽出する。
- ・ 指定された学校は，任意の1クラスの調査用紙を提出，出席番号の若い順に対象となる児童生徒を決定する。

（調査を実施した児童生徒の10%程度を抽出）

(7) 調査結果の取扱い

県教育委員会では，調査結果を報告書としてまとめ，県内のすべての小・中・高等学校，盲・聾・養護学校や市町村教育委員会等へ配布する。

2 各教科の結果概要

(1) 各教科の平均通過率（学年別）

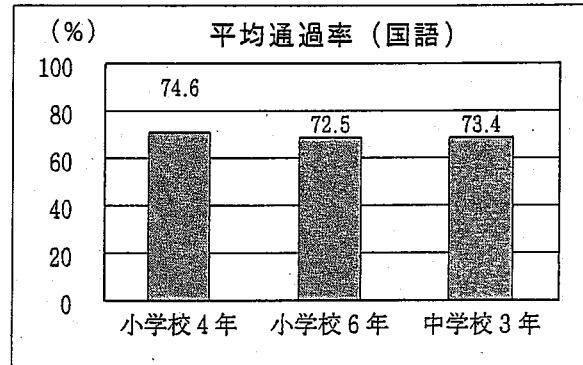
設問ごとの通過率を各教科及び学年ごとに集計し、平均を比較した結果である。小学校では、国語が7割、算数が8割を超える通過率であり、基礎・基本がおおむね定着している状況にあることがわかった。また、中学校では、国語は7割を超えており、基礎・基本がほぼ定着している状況にある。数学・英語においては、基礎・基本がほぼ定着している領域もみられるが、平均通過率が7割に満たないことが分かった。今回の調査では、基礎的・基本的な内容について出題していることを考えると、「基礎・基本」の定着に対する一層の取組が必要である。

【国語】 (単位：%)

	平均通過率
小学校 第4学年	74.6
小学校 第6学年	72.5
中学校 第3学年	73.4

(考察)

どの学年も70%以上の通過率であり、学年による差異は、あまりみられなかった。一般に学年が進むにつれて通過率が下がる傾向があるのではないかと予想していたが、中学校の定着率が下がっていないことが特徴としてあげられる。



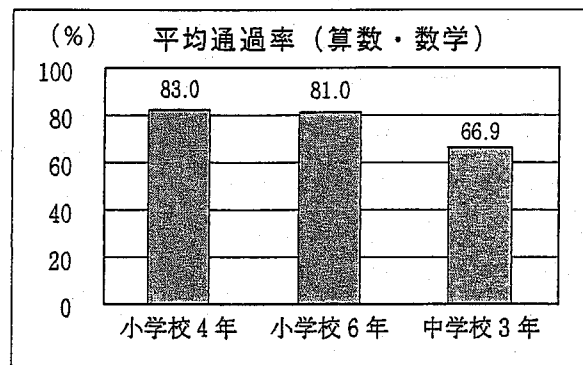
【算数・数学】 (単位：%)

	平均通過率
小学校 第4学年	83.0
小学校 第6学年	81.0
中学校 第3学年	66.9

(考察)

小学校は80%を超える通過率であるが、中学校は67%の通過率である。

出題範囲が異なるため単純に比較することは難しいが、各学年とも発達段階に応じた基礎的な学力を問う問題が多く占めていることを考えると中学校においては領域によって差がみられるものの基礎学力の定着に課題がみられる。



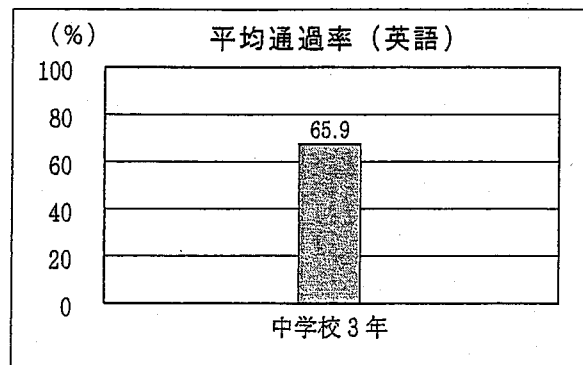
【英語】 (単位：%)

	平均通過率
中学校 第3学年	65.9

(考察)

最高通過率が98%、最低通過率が38%と設問によって開きがみられた。

他教科と異なり、小学校のデータが無く単純な比較はできないが、平均通過率が66%であることを考えれば、通常の授業等において基礎学力の定着に向けた指導方法の改善に努め、当面、70%以上の定着率を目指して積極的に取り組むことが望まれる。



(2) 各教科の通過率による分布状況（学年別）

ここでは、各設問の通過率を集計した結果を分布として示してある。

この分布によって、実施学年間や教科間の分布の比較を行うことができる。ただし、教科や学年が異なるため、教科ごとの定着状況や学年が進むにつれての定着度の大きな傾向等をとらえる際の参考とすることが望ましい。

ア 国語科の概要

平均通過率は、どの学年もほぼ同程度で、おおむね定着している状況であったが、通過率の分布を見ると学年によって通過率のばらつきに違いが見られることが分かる。なお、学年が進むにつれて、通過率が高い設問数が減少していることが分かる。

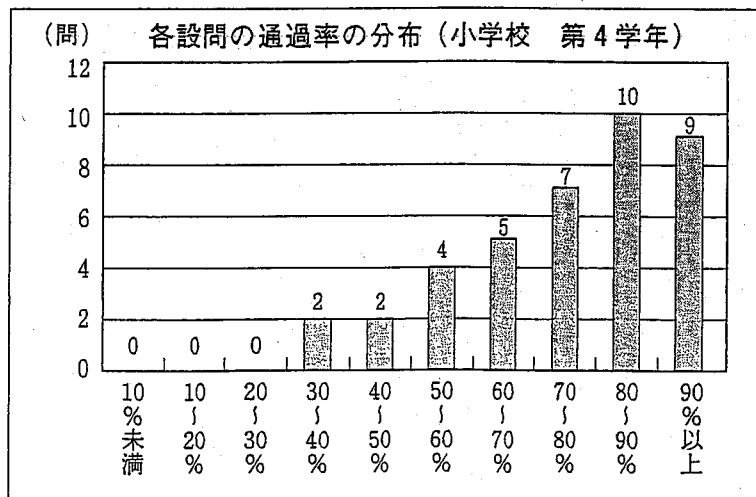
(ア) 各設問の通過率の分布（学年比較）

（単位：問）

通過率の分布	国語		
	小学校第4学年	小学校第6学年	中学校第3学年
90%以上	9	9	4
80%以上90%未満	10	4	6
70%以上80%未満	7	4	10
60%以上70%未満	5	5	5
50%以上60%未満	4	3	3
40%以上50%未満	2	4	2
30%以上40%未満	2	0	0
20%以上30%未満	0	1	0
10%以上20%未満	0	0	0
10%未満	0	0	0
設問総数	39	30	30

(イ) 小学校第4学年の通過率の分布

【小学校 第4学年】



【考察】

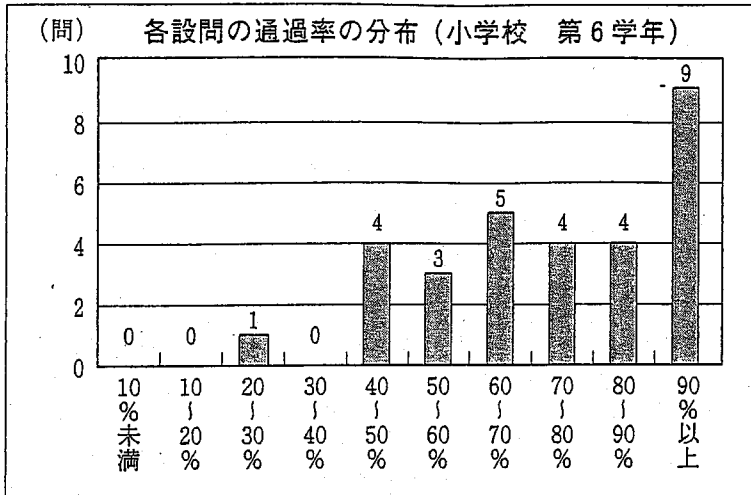
第4学年の通過率は、平均75%を超えており、通過率が50%未満のものは、わずか4問にとどまっていることから、基礎的・基本的な内容については、かなり定着していると判断してもよいと考える。

今後は、主述の照応した適切な文を書けないこと、長音の表記や指示語

の指す内容を正確に読みとれないこと等、今回の調査で明らかになった点についての指導方法の工夫・改善を行い、基礎・基本の確実な定着を図っていくことが大切である。

(ウ) 小学校第6学年の通過率の分布

【小学校 第6学年】



【考察】

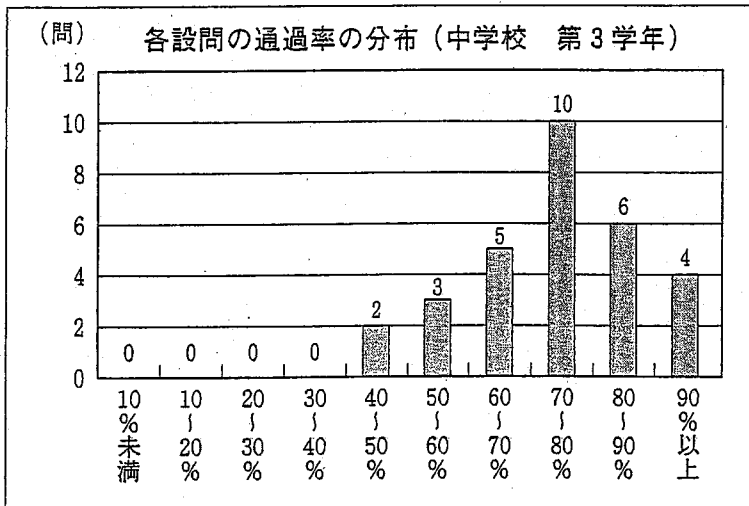
第6学年の平均通過率は、70%を超えており、また、通過率が50%未満のものは、5問にとどまっていることから、基礎的・基本的な内容については、ほぼ定着していると判断してもよいと考える。

しかし、通過率が26%と非常に低い設問も見られることから、重点的な指導が必要である。

今回の調査では、特に、目的や意図に応じて自分の考えを効果的に書けない児童が多いことや文の構成について初歩的な内容を理解できていない児童が多いことが明らかになっており、今後一層の指導の充実が求められる。

(エ) 中学校第3学年の通過率の分布

【中学校 第3学年】



【考察】

通過率80%以上の設問数は、小学校に比べて少なくなっているが、通過率70%以上の設問数は、全30問のうちの3分の2に当たる20問を占めており、小学校と同様に高い通過率を示していることが分かる。また、通過率が40%未満の設問は1問もなかったことが特徴としてあげられる。中でも、

漢字の読み・書きを中心とした言語事項に関する設問については通過率が高く、基礎・基本の定着が図られていることが分かる。しかし、「読むこと」において内容を正確にとらえる問題の通過率が特に低く、今後の重点的な指導が望まれる。

イ 算数・数学科の概要

80%以上の高い通過率を示す設問数が、学年が進むにつれて少なくなっている。
 また、40%未満の低い通過率を示した設問は、小学校にはみられなかったが中学校では1割ほどあり、十分定着がなされていない内容があることが分かる。

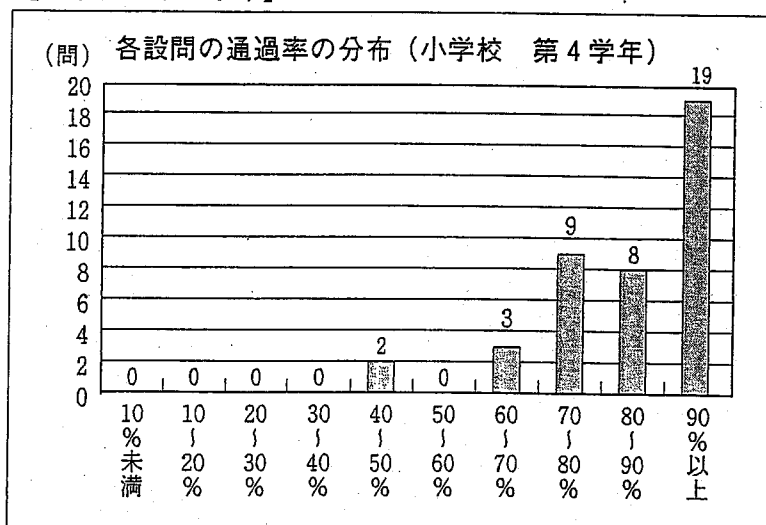
(ア) 各設問の通過率の分布 (学年比較)

(単位：問)

通過率の分布	算 数 ・ 数 学		
	小学校第4学年	小学校第6学年	中学校第3学年
90%以上	19	11	2
80%以上90%未満	8	13	10
70%以上80%未満	9	7	8
60%以上70%未満	3	1	6
50%以上60%未満	0	1	3
40%以上50%未満	2	3	5
30%以上40%未満	0	0	3
20%以上30%未満	0	0	1
10%以上20%未満	0	0	0
10%未満	0	0	0
設 問 総 数	41	36	38

(イ) 小学校第4学年の通過率の分布

【小学校 第4学年】



【考察】

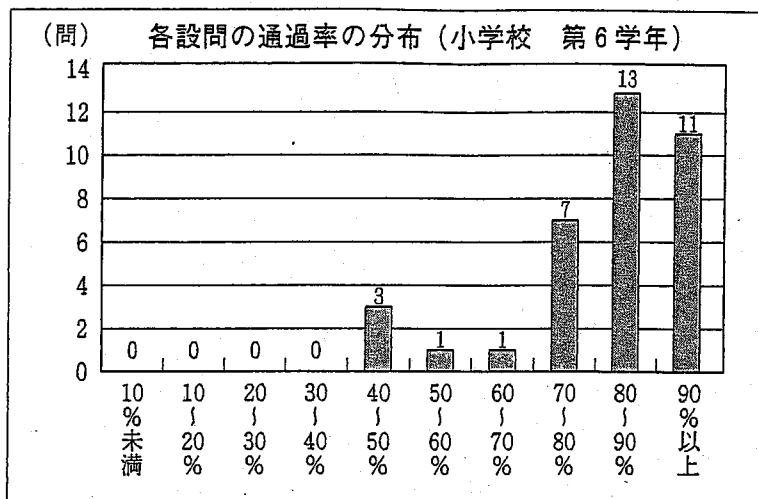
全設問数41問のうち半数近い19問が通過率90%を上回っており、70%を超える通過率を示す設問は全体の88%に当たることから、基礎・基本の定着は、おおむね図られていると考える。

しかし、通過率が低い設問を分析するとどの領域の設問も含まれていることから、特定の領域ではなく、各領域において

十分な定着が図られていない面があるのではないかと考えられる。例えば、「量と測定」領域の設問では、巻き尺の1目盛りが何cmを表すか、はかりの1目盛りが何gを表すかが理解できずに、特に低い通過率となったことが予想されるなど、今後、どの学習内容において定着が不足しているのかを細かく調査し、指導の重点化を図る必要があると考える。

(ウ) 小学校第6学年の通過率の分布

【小学校 第6学年】



【考察】

通過率が80%を超える問題が全設問数のほぼ7割を占め、通過率の70%を超える設問数は86%に当たる。

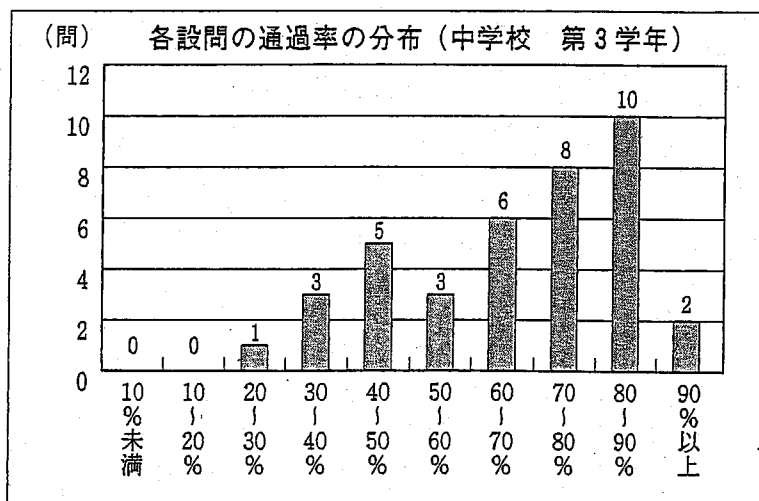
このことから、基礎・基本の定着は、おおむね良好であると考ええる。

しかし、通過率が50%に満たない問題も約1割あり、誤答傾向を分析し、指導方法の工夫・改善を

図っていく必要がある。今回の調査では、特に分数を小数に表したりすることや小数の乗法をどのような場面で活用することができるかを問う設問、もとにする量と割合から比べられる量の大きさを求める設問等の通過率が低いことが明らかになっており、今後の指導方法改善が求められる。

(エ) 中学校第3学年の通過率の分布

【中学校 第3学年】



【考察】

小学校と比べると90%以上の高い通過率を示す設問数が少ないが、全体の38問中20問は70%以上の通過率であった。

しかし、通過率が50%に満たない設問数も9問で24%を占めており、今後の指導方法改善が求められる。

具体的には、40%から49%の通過率の設問は、

「1次関数」「確率」であり、40%以下の通過率の設問は、「1次関数の交点」「三角形の合同条件」「二等辺三角形の決定条件」「直線と平面の垂直関係」であった。

これらの設問は、いずれも「数と式」以外の領域の設問であり、特に学年後半で取り扱う場合が多い「数量関係」の定着が不十分であることがうかがえる。また、「図形」については、論証、立体の構成等に関連する設問の通過率が低く、今後の指導方法改善が必要である。

ウ 英語科の概要

平均通過率66%を中心に通過率が分布している。通過率が70%を超える設問が15問あり全体の4割を超えている。一方、通過率が50%を下回る設問も7問あり、全体の2割である。最も高い通過率は98%であり、最も低い通過率は38%であることから、設問ごとの通過率の差が大きい。

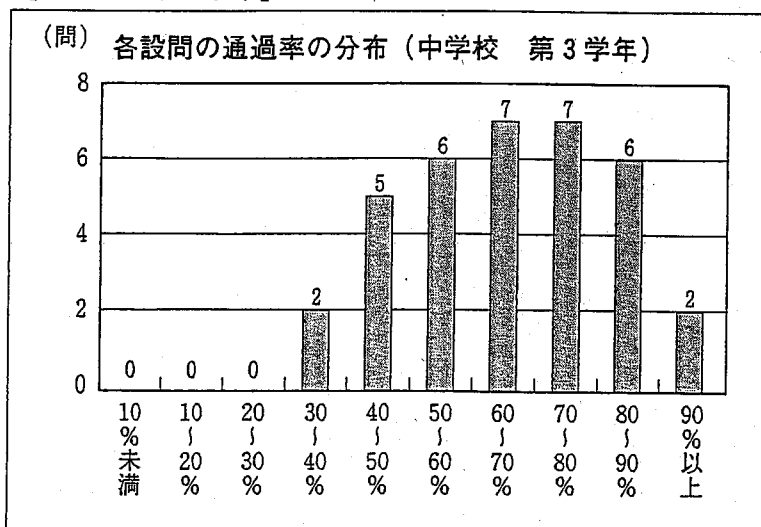
(ア) 各設問の通過率の分布

(単位：問)

通過率の分布	英 語	
	中学校第3学年	
90%以上	2	
80%以上90%未満	6	
70%以上80%未満	7	
60%以上70%未満	7	
50%以上60%未満	6	
40%以上50%未満	5	
30%以上40%未満	2	
20%以上30%未満	0	
10%以上20%未満	0	
10%未満	0	
設問総数	35	

(イ) 中学校第3学年の通過率の分布

【中学校 第3学年】



【考察】

通過率が70%を超える設問数は全体の43%であり、今後は、指導内容を焦点化することによって基礎・基本の定着に一層努める必要がある。

通過率の高いものには、場面や状況にふさわしい表現を選択する設問や伝えたい内容、場面に応じた表現を選択する設問があげられる。一方、通過率が50%を下回るものと

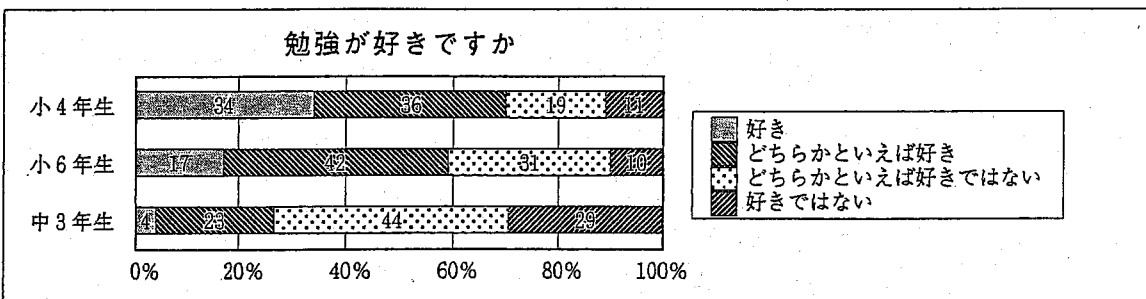
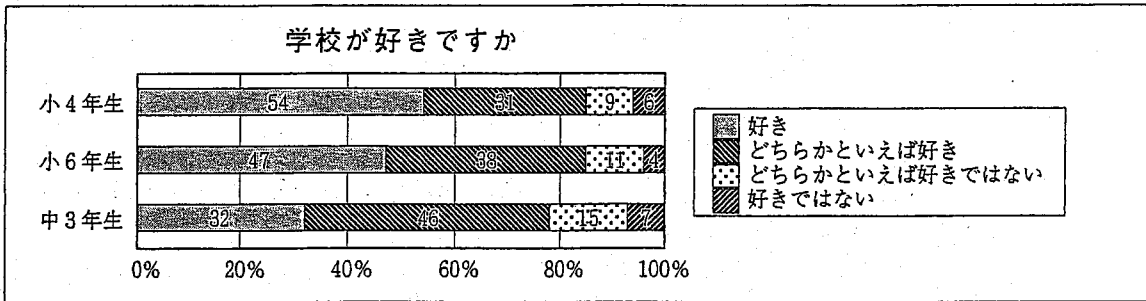
しては、聞き取り問題での比較の表現を用いて適切な絵を選択する設問、言葉の使い分けをもとに適切な語句を選択する設問、書かれた情報について概要を読み取る設問等があげられる。今後は、これら通過率の低い内容に対する重点化した指導が求められる。

3 意識調査の結果概要

意識調査においては、(1) 学校生活や家庭生活などの実態や生活態度等に関する意識の傾向、(2) 教科に関する意識の傾向、(3) 意識調査と教科の通過率との関係の3つの視点から分析・考察を行った。ここでは、特に顕著な関係等が見られる項目について抜粋し、考察している。

(1) 学校生活や家庭生活などの実態や生活態度等に関する意識の傾向

勉強が好きな児童は、学校が好きであるという傾向がある。

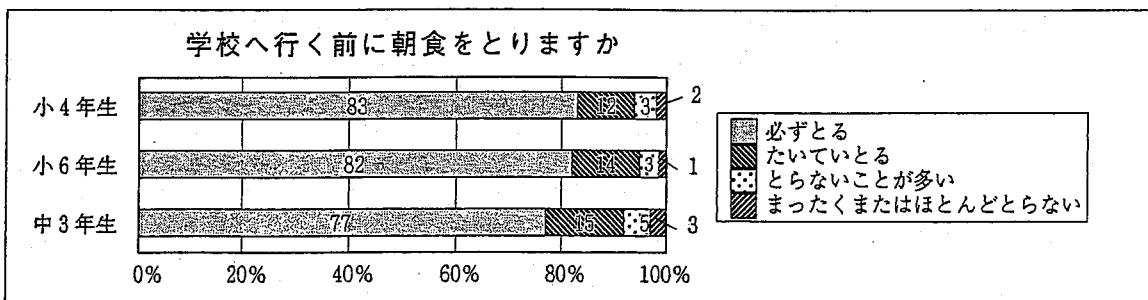


【考察】

小・中学校とも約8割の児童生徒が学校を好きと答えているが、勉強が好きと答えている児童生徒は学年が進むにつれて少なくなっている。

勉強が好きな児童は、学校が好きであるという傾向がみられることから、わかる授業づくりに努めるなどの授業改善が、学校を好きな児童生徒を増やすことにつながると考える。

学校へ行く前に「朝食を必ずとる・たいていとる」児童生徒の割合は、小4で95%、小6で96%、中3で92%である。

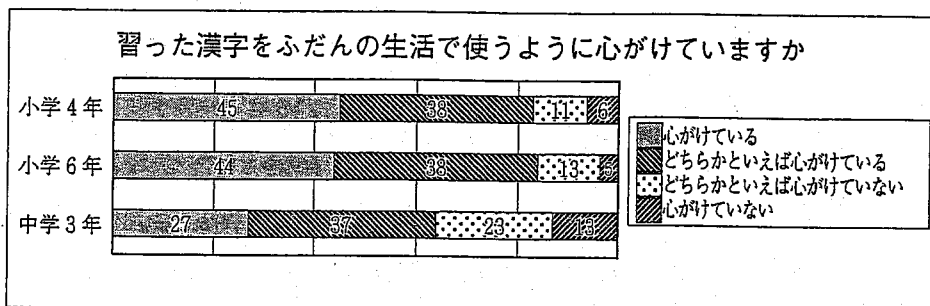


【考察】

本県においては、ほとんどの児童生徒が朝食をとって登校していると答えており、好ましい傾向にある。朝食をとって登校することは、一日の生活のリズムをつくる上でも大切にしたい基本的な生活習慣である。しかし、全くまたはほとんどとらない児童生徒も若干名みられることから、児童生徒や保護者に毎日朝食をとるなど、基本的な生活習慣を身に付けることの大切さについて理解してもらう必要がある。

(2) 教科に関する意識の傾向

習った漢字をふだんの生活で使うように心がけている・どちらかといえば心がけている児童生徒の割合は、小4で83%、小6で82%、中3で64%である。

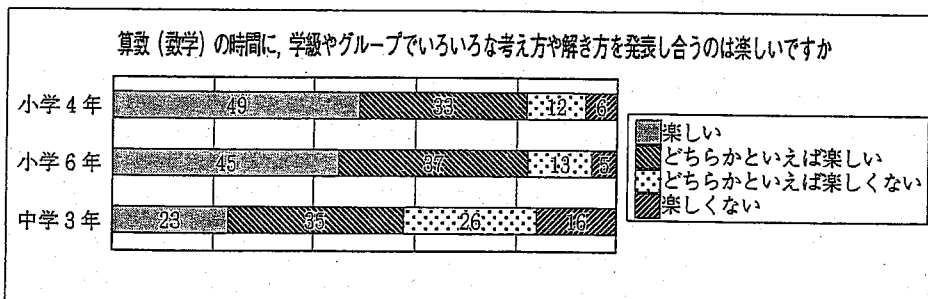


【考察】

小4、小6では80%を超える児童が習った漢字をふだんの生活で使うように心がけているが、中3になると約60%程度に

下がっている。習った漢字を日記等で積極的に使うようにするなど、学校での学習を日常生活に生かす取組を家庭と連携しながら進めていくことが大切である。

算数(数学)の時間に、いろいろな考え方や解き方を発表し合うのが楽しい・どちらかといえば楽しいという児童生徒の割合は、小4で82%、小6で82%、中3で58%である。

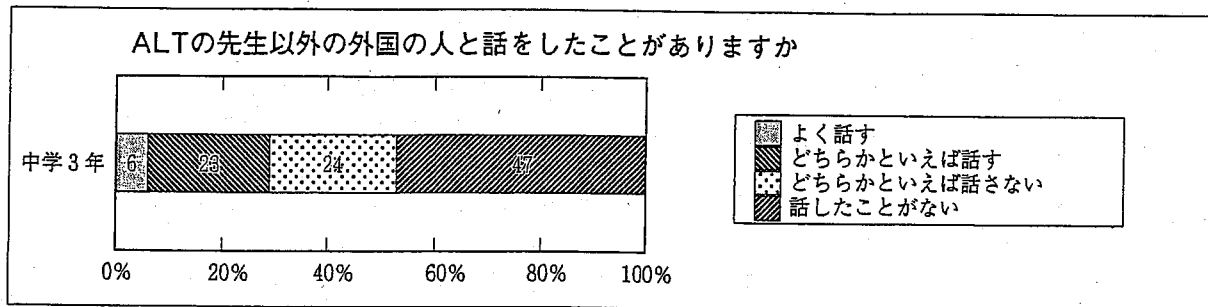


【考察】

算数(数学)の時間に、いろいろな考え方や解き方を発表し合うのが楽しいと答えた児童生徒の割合は、小4と小6は、

82%、中3では58%であり、中学校において低い傾向がみられる。中学校において発表し合うことを楽しいと答える生徒が少なくなることから、生徒の主体的な取組を促すなど、指導方法のさらなる改善が求められる。

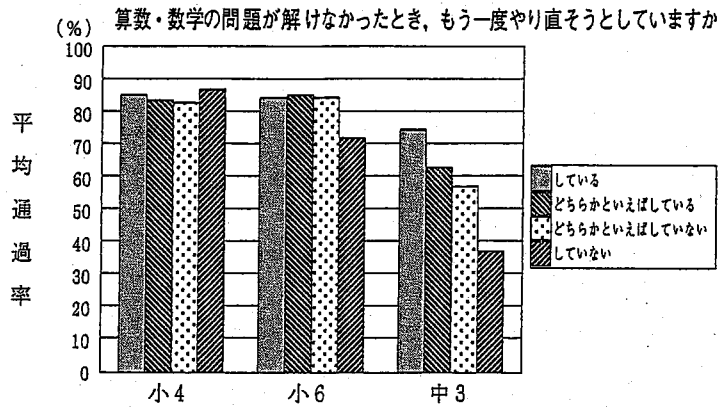
ALT以外の外国の人とよく話す生徒の割合は6%である。



「ALT以外の外国の人と話をしたことがありますか」という設問では、「よく話す・どちらかといえばよく話す」と答えた生徒を合わせると29%で、約70%の生徒がALT以外の外国の人と話したことがないことがわかる。このことから、学校でのALTとの授業は、外国の人と話す重要な機会となっており、一層の充実が必要であると言える。

(3) 意識調査と教科の通過率との関係

中3では、問題が解けなかったとき、もう一度やり直そうとしている生徒は、数学の基礎学力が高い傾向にある。



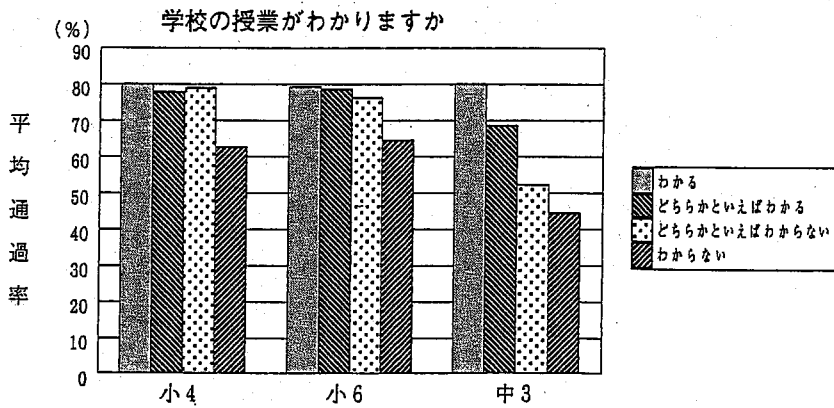
【考察】

中3では、問題が解けなかったとき、もう一度やり直そうとする生徒は基礎学力が高い傾向にある。また、小6でもその傾向がみられる。

個々の解けなかった問題を再度やり直す機会を設け、適切な補充指導を行うことが大切である。その際、児童生徒がやり直したことを見届けることが必要である。繰り返し学習

することによって学力が向上したことを児童生徒自身に実感させ、自らやり直しをしようとする意欲と態度を育てたい。

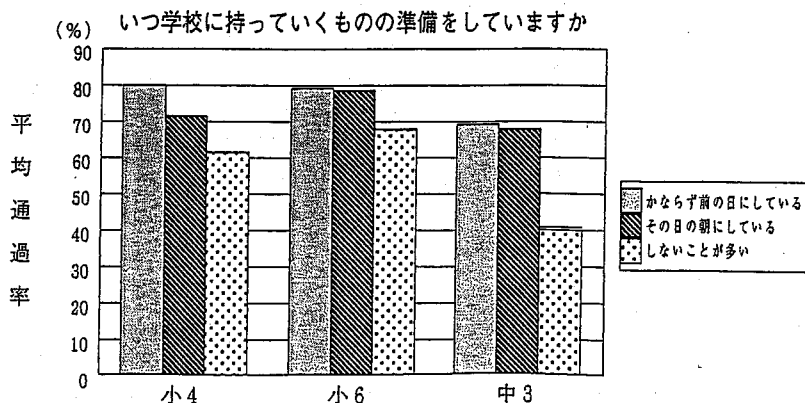
学校の授業がわかるという児童生徒の基礎学力は高い傾向にある。



【考察】

学校の授業がわかるという児童生徒の基礎学力は高い傾向にあることから、当然のことではあるが、授業を改善していくことの重要性が分かる。今後、一層わかる授業づくりを目指して努力することが大切である。

学校に持って行くものを前日もしくは当日の朝、準備している児童生徒の基礎学力は、高い傾向にある。



【考察】

学習の準備について前日もしくは当日の朝、準備をしていると答えた児童生徒の基礎学力は高い傾向にある。基本的な生活習慣の定着と基礎学力との関係を考えさせられる結果である。保護者と連携し、計画的に学習の準備をする習慣化に努めることが大切である。

(4) 意識調査の結果にみられるその他の特徴ある傾向

① 学校生活や家庭生活などの実態や生活態度等に関する意識の傾向

ア 「勉強が好き」と答えた児童は、学校が好きと答える傾向がある。

イ 1日の勉強時間については、「まったくしない、30分未満」と答えた児童生徒の割合は、小4は22%、小6は14%、中3は17%であり、家庭での学習時間が少ないことが分かる。

ウ 学校へ行く前に「朝食を必ずとる・たいていとる」と答えた児童生徒の割合は、かなり高く、小4は95%、小6は96%、中3は92%である。

エ 1日に2時間以上テレビを見たり、ゲームをすると答えた児童生徒の割合は、小4は47%、小6は66%、中3は64%であり、テレビやゲームに費やす時間がかなり多い。

オ 1か月に本を全く読まない児童生徒の割合は、小4と小6が8%、中3が22%であり、中3に読書離れの傾向がみられる。

② 教科に対する意識の傾向

ア 中3では、国語の大切さは感じているが、授業が「わからない」「どちらかといえばわからない」と答えた生徒の割合は20%である。

イ 小4、小6は約80%の児童が「習った漢字をふだんの生活で使うように心がけている」が、中3の生徒の割合は約60%に下がっている。

ウ 算数・数学の授業が「わからない」「どちらかといえばわからない」と答えた中3の生徒の割合は30%で、小6の3倍である。

エ 「算数・数学の時間にいろいろな考え方や解き方を発表し合うのは楽しい」と答えた児童生徒の割合は、小4は49%、小6は45%、中3は23%と学年が進むにしたがって減少している。

オ 英語の授業が「わからない」「どちらかといえばわからない」と答えた中3は、42%である。

カ ALT以外の外国の人と話をしたことがある生徒は29%である。

③ 意識調査と教科の通過率との関係

- ア 「勉強が好き」と答えた児童生徒の基礎学力は高い傾向にある。
- イ 「学校の授業がわかる」と答えた児童生徒の基礎学力は高い傾向にある。
- ウ 勉強でわからないことがあったら、誰かに聞いたり自分で調べたりする児童生徒の基礎学力は高い傾向にある。
- エ 中3では、授業中に先生の話や友だちの発表を聞いている生徒の基礎学力は高い傾向にある。
- オ 「宿題の他にも自分で考えて勉強する」と答えた児童生徒の基礎学力は高い傾向にある。
- カ 学校に持って行くものを前日もしくは当日の朝準備している児童生徒の基礎学力は高い傾向にある。
- キ 「国語の授業がわかる」と答えた児童生徒の国語の基礎学力は高い傾向にある。
- ク 中3では、数学が「好き」と答えた生徒の数学の基礎学力は高い傾向にある。
- ケ 「数学の授業がわかる」と答えた、中3の生徒の数学の基礎学力は高い傾向にある。
- コ 中3では、計算の学習が「好き」と答えた生徒の数学の基礎学力は高い傾向にある。
- サ 中3では、図形の学習が「好き」と答えた生徒の数学の基礎学力は高い傾向にある。
- シ 中3では、「式や表グラフを使って数や量の関係を表す学習が好き」と答えた生徒の基礎学力は高い傾向にある。
- ス 中3では、問題が解けなかったときもう一度やり直そうとしている生徒は基礎学力が高い傾向にある。また、小6でもややその傾向がみられる。
- セ 英語が「好き」と答えた生徒は、英語の基礎学力が高い傾向にある。
- ソ 英語の授業が「わかる」と答えた生徒の英語の基礎学力は高い傾向にある。
- タ 学習した単語や基本文を身につけようと努力している生徒は、英語の基礎学力が高い傾向にある。